

第 3 学 年

1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」

ー 国語科「話す・聞く」の学習を通して ー

2 育てたい力

◆表現力

○相手に分かるように理由づけをして話すことができる。

◆コミュニケーション力

○互いの考えの相違点や共通点を考えながら，合意点を見つけようとして，進んで話し合うことができる。

3 研究の視点と手だて

〔視点1〕 国語科の基礎基本の定着を図る指導の工夫

○ワークシートの工夫

○メモのとり方の練習

〔視点2〕 「話す・聞く」力を高めるための話し合い活動における工夫

○話し合いの形態の工夫（ペア，グループ，学級全体等）

○話し合いにふさわしい場の設定（特別教室の利用，机の配置の工夫等）

〔視点3〕 日常的な活動の場での工夫

○朝の会，帰りの会でのスピーチの定着化

○相手や状況にふさわしい言葉づかいの意識化

第3学年 成果と課題

3学年では国語科の「話すこと・聞くこと」の学習を通して、表現力やコミュニケーション力を育んでいきたいと考え実践していった。ここでの表現力とは「相手に分かるように理由付けをして話すことができること」であり、コミュニケーション力とは「互いの考えの共通点や相違点に気づきながら、合意点を見つけようと進んで話し合いをする態度を身に付けること」であるにとらえた。

国語科の「話すこと・聞くこと」の学習は「進んで話し合い、発表しよう」（9月）でブレインストーミング的な話し合いを行い、「名前をつけよう」（12月）では目的に合った決定をするという話し合いを学んでいくことになっている。これらの単元を中心にした国語の授業や、「話す・聞く」体験を意識的に取り入れた日常的な活動の場で、3つの視点から指導の手だてを立て成果を得ることができた。

〔視点1〕国語科の基礎基本を図る指導の工夫

○ワークシートの工夫

児童の実態を考慮し、時間内で有効に活用できる内容にしたことで無理なく記入することができた。記入することで自分の意見を発表したり、聞き手が内容を確認したりに活用できる。グループ内の意見を表などにまとめることで思考が整理・視覚化され、振り返りも容易になった。更に自己評価欄は課題の明確化と意欲付けに効果的であった。

○メモの取り方の工夫

すべてを書くのではなく要点をまとめながらの書き方や短い言葉に置き換える書き方の練習を行うことで、次第にメモを取ることに慣れて抵抗なく書けるようになった。

▲相手に伝わるように話すための技術の一環として音読の学習の充実が更に必要である。

〔視点2〕「話す・聞く」力を高めるための話し合い活動における工夫

○話し合いの形態の工夫

最初は隣同士で意見交換など少人数のグループから話し合いをさせたり、メンバー構成を担当が考えたりして、意見を言うことへの抵抗感を少なくする工夫を行うことで話し合いがスムーズに進められた。

○場の設定

グループ毎に互いの顔が見え、司会者が中心に来るような机の配置を工夫すれば教室内でも複数グループが同時に話し合いができることが分かった。

○話型を書いたカードや簡単な台本の活用

意見を言ったり、司会を進めたりする際に活用できるように用意したことで、話し合いの仕方や手順を学ぶのに有効であった。

▲話し合いの題材の設定は児童の実態と授業のめあてによりいろいろ考えられるので吟味する必要がある。また話し合いの場として、人数やグループ数によっては特別教室を使用することも考えられる。

〔視点3〕日常的な活動の場での工夫

○朝の会でのスピーチ

聞き手を意識した話をするとともに、聞き手はしっかり聞いて質問をすることを習慣化することができた。

○話し方・聞き方のポイントの提示

日常的に、機会をとらえて訓練し意識化することで身に付けてきている。

▲殆どの児童がスピーチを抵抗なくできるようになったが、内容がマンネリ化してくるので質の向上を目指していきたいと考え、指導している。